

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2373900493
法人名	平成フードサプライ有限会社
事業所名	グループホーム稲沢重本の家
訪問調査日	平成 19 年 11 月 6 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 22 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	2373900493
法人名	平成フードサプライ有限会社
事業所名	グループホーム稲沢重本の家
所在地	愛知県稲沢市重本2-84 (電話)0587-22-3211

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成19年11月6日	評価確定日	平成19年12月22日

【情報提供票より】(19年 9月 11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 11 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤	14 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 4.2 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,500 円		

(4)利用者の概要(9月 11日現在)

利用者人数	25 名	男性	8 名	女性	17 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	60 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田中医院・古森歯科・稲沢市民病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鉄骨3階建て、3ユニットのグループホームである。広い通りから1本入っているため車の交通量が少なく安全なため近所への散歩は日課となっており、又喫茶店に行きたい人や買物に行きたい人の個別の外出支援を頻繁に行っている。町内のゴミ運動には利用者も職員と一緒に参加して、休憩の時お茶を飲みながら地域の方々と交流を図っている。又近くにあるお地藏様の掃除は利用者に掃除のやり方を聞きながら行っている。受診の体制も家族に出来るだけ負担をかけることがないようにスタッフが対応している。今後ターミナルケアにも対応できるように努力されたい。利用者一人ひとりの充実した生活が継続されるように取り組んでいるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念の共有や啓発の取り組みの強化や地域との交流が主な改善点だった。理念はミーティングやカンファレンスの際に触れて共有を図っている。地域との交流も散歩や喫茶店への外出の時に声をかけてもらったり、こちらから声をかけたりして積極的に交流を図っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の趣旨を職員に説明して自己評価をそれぞれ書いてもらい、それを管理者がまとめた。自己評価により職員が認知症介護に対して理解を深める機会となった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地区の方の好意により重本公民館を使用させてもらっている。主な討議内容としては、活動状況の報告やホームに対する要望などである。今後も運営推進会議が地域とのつながりを深めていくための貴重な機会であると捉えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が来所した時に気軽にスタッフに話ができるように雰囲気づくりに努めている。出された意見はスタッフ間で話し合い善処できるように検討している。また職員は利用者の家族もホームの一員という認識で接しているため、家族との連携がよく図られている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩のときの挨拶や声かけは積極的に行っている。ゴミ運動の参加やお地藏様の掃除に参加し、近所の方々とコミュニケーションを図っている。今後は子供会の会長より紹介があり、子供たちがホームに遊びに来てくれる予定もある。又ボランティアの訪問を積極的に受け入れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として「ゆったり・おだやかにやさしい介護」を掲げ、利用者一人ひとりがその人らしい生活を継続し、利用者と職員が共に助け合い、共に暮らしていくように取り組んでいる。	○	事業所独自の理念をつくり現在に至っているが、地域密着型サービスとして位置づけられたので、これを機に出れば地域密着型サービスとしての役割を目指した理念も付け加えられることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内の各所に掲示している。管理者はミーティングの場で折にふれ理念については触れており、又日々のケアの中でも活かされるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日課となっている散歩の時に近所の人から声をかけられたり、ゴミO運動に利用者も一緒に参加したり、お地藏様の掃除をしたりして積極的に交流を図っている。	○	自治会やその他の地域の活動にこれからも参加してこれらの取り組みを継続して、さらに地域に密着したホームとしての活動に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことによって日頃の取り組みを再確認し、外部評価を受けることによって気付かなかった部分を知って、サービスの質の向上を図ろうと取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は区長や民生委員や家族も含めて定期的に行われ、ホームの取り組んでいる現状を報告し、意見を伺う場として重要な位置づけにしている。又、出された意見は職員間で共有している。	○	今後はより活発な意見交換を行い、サービスの向上に活用することが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は月1回以上、市の担当者を訪問し情報交換をしている。それをホームで話しサービスの質に役立てている。市役所主催の研修にも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	グループホーム便りはないが毎月の請求時に館長が行事の案内・日々の様子・連絡事項などを書いて送っている。金銭管理は利用者個々の出納帳があり、訪問時などにサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族が気軽に意見が言えるような関わりを持ち、できる限り意向や意見を言いやすい雰囲気作りをしている。出された意見は職員全員で検討し、共有するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のユニット間の異動はあるが、利用者に与えるダメージを少なくするように1人ずつ行うようにしている。ユニット間で協力し合って普段からユニットを行き来して利用者と顔なじみになっているので、異動してもトラブルはない。	○	管理者がよく替わるとのことなので、このホームの持っている雰囲気をこわさないためにも定着を期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は全職員が受講している。外部の研修は市の認知症などの研修会に参加したりしている。自主的に休みの日に研修に参加する職員もいる。法人内では管理者や職員のために研修費の補助制度を設けている。	○	すべての職員が地域密着型サービス等についての理解を得るためにも、外部の研修で段階に応じた研修をしていくことを望む。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームとは共同して行事などをして交流する機会を持っている。グループホーム協会などへのネットワークづくりの参加は行っていない。	○	他事業所との交流で情報交換や意見交換を行い、サービスの質の向上に反映させていくことを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があればホームの見学に本人や家族に来てもらい、その後ホーム側から面接に行っている。本人の生活歴などの情報を職員全員で共有することにより、徐々に馴染めるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬う精神で、日常生活の中で家族のように自然な関係を築いている。一方的にお世話をするのではなく、一緒に過ごしながら生活の技などを聞きながら支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、例えばテレビを見ている時などさりげない会話の中から利用者本人の考えや意向などが把握できるように努めている。そのためにもスタッフと利用者がふれあう時間を多くとっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員によるケアカンファレンスは毎月1回行っている。そこで利用者の気持ち、家族の意向や意見、その他必要な関係者の意見やアイデアを反映させた介護計画を作成している。	○	今後の方針として、ケアプランの見直しを行い、家族や日々の様子から得ることが出来た本人の情報をより具体的にケアプランに反映させることが出来るように努力されたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	スタッフの気付きや意見を最大限にプランに反映させながらケアプランの変更もしている。	○	定期的見直しは当然のこととして、それ以前の介護計画に沿わない問題などが生じた場合の積極的な対応が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院が必要な時には家族ではなく基本的にスタッフが 行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月一回、ホームの協力医の往診がある。必要があればほかに本人のかかりつけ医にも受診ができるように体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・本人の意思を尊重して医療側に伝えている。必要時には病院へ搬送している。	○	ナースもスタッフの中にいるのでターミナルケアを実施したい希望があるので、全職員が安心して本人を見守ることが出来るように今後の取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報、同意書をとり必要不可欠な時以外には他人には見せない。利用者に対しては本人を尊重した言葉遣いと対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの希望を傾聴して、丁寧に接することに努力している。(個別の買い物・喫茶店に行ったりなど。)		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力を最大限にみとめ、準備の手伝いや後片付けをしてもらうことで、役割意識をもってもらえるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状態によって臨機応変に入浴してもらっている。フロアごとに自由に入っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・後片付けをして一日のリズムをつくることのできるように支援したり、趣味の囲碁や将棋をして楽しんでもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩をしている。また、利用者の希望で喫茶店にいたり、買い物にいたり、楽しく外出の支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日夜ともに鍵はかけない。もし出て行ってしまったときには見守り、またはそのままさりげなく散歩に出かけるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署に協力を得ている。一回は消防署立会いのもとに避難訓練を行い、もう一回はマニュアルの確認を行っている。	○	今後は夜間想定 of 訓練も行われることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態が悪い人にはミキサー食を出すなどの工夫をしている。知らないうちに脱水傾向にならないように10時や3時のお茶の時間にも飲んだ量のチェックをして、少なければ多めに飲んでもらうようにしている。	○	高齢者の脱水症状は進行が早く危険である。一人ひとりの水分摂取を計画的に進め、記録をされたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファの向きをかえて、利用者が居心地が良いように工夫したり、利用者と共に楽しみながら季節感のある飾り付けをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・思い出の品を持ち込んでもらい、利用者それぞれの気持ちにあった空間を作りあげてもらっている。		